



白山神社遠景

白山神社由緒

創立年代は明らかでないが平安時代に比叡山、西塔の僧 武蔵坊弁慶の血縁であった弁智が法華経を奉納した関東七社の中の一社であると伝えられている。

天正十八年（一五九〇）六月 豊臣、北条の戦に合い焼失したが、慶長十八年（一六一三）願主、木曾村（現 町田市）覚円坊の僧頼長権大僧都と大旦那 伊藤九郎左衛門により再建され、以来明治維新まで中山村の常宝院が別当であった。

江戸時代の白山神社は中山村の鎮守社として、社地一町歩を保有しまた、領主勝田家は敬神の念厚く、元文三年（一七三八）正月神鏡を奉納し、更に十一代將軍家斉の鷹狩に際して豊猟を祈願し和歌一首を詠進している。

文政九年（一八二六）春、社殿裏の塚より法華経十巻が発見され、その経巻の奥書に「大歳甲戌、仁平四年（一一五四）九月時許於 武蔵国西郡船木田御庄内長隆寺 西谷書字了勸進僧弁智血縁者僧忠尊」とあり、村人の伝承が裏付けられたばかりでなく考古学資料として評価されている。

◇散歩のみどころ

J R八王子駅南口から京王バス南大沢行きに乗車。野猿峠バス停から上柚木公園までの凡そ四・五kmの行程。母子猿が案内した水飲み場、人や牛馬も一息いれた峠から直ぐ右へ入ると大学セミナーハウスである。本部の建物は異様だ。そこから下り、ひな鳥山を見学。三連水車は圧巻である。再び大学セミナーハウスの脇を通り、白山神社へ向かう。以前この神社からは、八王子の歴史を覆す程の貴重な文献等が発見されている。神社を出て中山バス停を過ぎ、悪狸伝説の永昌院へ。更に下田バス停から暫く歩き、高台の西光寺へ。ここからは、南大沢のビル群と田園風景が残る上柚木が一望できる。さらに南へ下ると、大栗川と都道府中相模原線にぶつかる。上柚木公園近くの愛宕神社に参拝。公園内を散策しながら首都大学を経て、シヨッピング街横を通り南大沢駅で解散。

①野猿街道と野猿峠

絹ヶ丘三丁目

八王子市と多摩市を結ぶ道路である。甲州街道の横山郵便局を起点として京王線北野駅を経て、野猿峠を越え由木地区を縦断し、多摩一ノ宮で川崎街道と合流する地点までを野猿街道と称している。

また野猿峠は、八王子の絹ヶ丘三丁目と下柚木との境にある峠をいう。標高は百六十m、江戸期には猿丸峠または猿山峠ともいわれていた。

武蔵名所図絵では、八王子から打越を経て峠を越え、小野路から神奈川方面へと向かった往還と記されている。新編武蔵風土記稿には、山上すべて松樹たりてという景観で表現され、武蔵野歴史地理には、峠の頂上には手の平松と呼ばれる大樹があり眺望の良い景勝地として紹介されている。また、高嶺団地の高台辺りには大石氏の墨跡(中世)があつた。

●野猿峠の水飲み場

八王子へ向かう野猿峠バス停近く、親子猿が彫られたコンクリート造りの水飲み場跡がある。親子猿が案内してくれた水飲み場として、いつの頃からか知られるようになった。

この峠は、由木と八王子の街中を結ぶ唯一の道であった。一息で峠越えとはいかず、人馬も途中の峠で休息をとらねばならなかった様である。自動車が普及する昭和三十年代以前は、人馬ともにここで水を飲み、一息いれる姿が見られたという。今でもわずかだが水が出ている。



野猿峠のバス停



親子猿像



親子猿が彫られている水飲み場跡

② 八王子セミナー・ハウス

正式名称は、財団法人大学セミナー・ハウス。広大な多摩丘陵の西部に位置し、都心から一時間程度の教育研究施設。昭和四十年（一九六五）七月五日に開館した。

創設者飯田宗一郎氏（茨城県出身、同志社大学卒、当時国際基督教大学就職部長）は、マスプロ化した大学では真の師弟交流は出来ないと考え、教師と学生が共に生活し、専攻の学問と精神を共有交誼できる場としての合宿施設を提言した。昭和三十七年（一九六二）国公私立十三校を協力校として「財団法人大学セミナー・ハウス」が発足。他の財団法人や個人などからの寄付により各施設を建設、新しい学問研究の場として注目された。昭和四十七年三月、第一回国際学生セミナーを開催。現在五十七の国公私立大が参画。面積二万二千四百坪、二百八十名の宿泊室、二十のセミナー室など、インターネット環境も充実している。



設立発起人会

設立発起人会

（日本工業倶楽部／61・11・30）

左前列より茅誠司、大浜信泉

石館守三、上代たの

中列左より佐原六郎、大泉孝

永井雄三郎、岡田謙

後列左より小谷正雄、

飯田宗一郎、

島田孝一、

大木金太郎

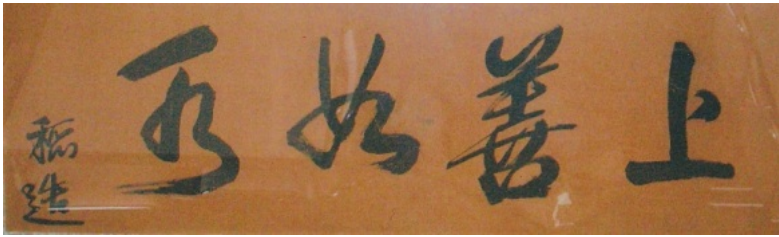
●本館

ピラミッドを逆さまにして立てた形状の建物。設計者は、早稲田大学教授吉阪隆正氏。記念誌の中で、「大地に「知の楔」を打ち込んだ形」と紹介されている。館内は、事務局をはじめ食堂や宿泊施設が完備されている。特に食堂には、春秋戦国時代の思想家老子が詠んだ「上善如水」の額が掲げられている。新渡戸稲造の筆とされている。



本館

また、福沢諭吉直筆の書も保存されている。（小城正雄氏寄贈）過去にはテレビの特撮番組（ウルトラシリーズ）のロケにも使用されていた。



食堂にある額（新渡戸稲造の筆）

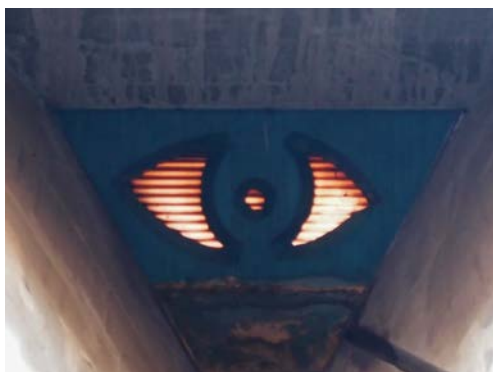
●真理の眼

本館北側上段に真理の眼を模した構造部が作られている。三角形の大きな窪みの奥に、人の眼に似せた造りになっている。一瞬異様な感じに見える。目の三角形の一边は二m程。現実の真理認識は、次の三説により成り立っているという。

- ・ 真理とは、観念と実在との合致により真が成立すると考える対応説。
- ・ 観念が整合的な観念体系の内部で適合するときに真が成立すると考える整合説。
- ・ 仮説が事実によって検証されたときに真が成立すると考えるプラグマティズム。

また、真理値とは、真と偽とを命題の価値と見たときの呼称であり、真偽以外の中間の値をもつ多値論理の体系も存在するという。

これらの真を良く見極めよという意味の眼だという。



真理の眼



本館裏上部の不気味な眼

●遠来荘の栞

本館北側の下、いろは坂駐車場には以前、百年以上の歴史を有する多摩地方の典型的な養蚕農家、茅葺きの民家が保存されていた。江戸時代から伝わっている古風な入母屋造りの構えを良く残していた。所有者小泉勇二氏の寄贈によるもので、旧柚木村鑑水からこの場所に移築復元したもの。名前も遠来荘とし、民族資料として保存すると共に、茶会や句会など日本文化の研修活動の場として利用されていた。しかし故有って平成二十年頃か、愛媛県西条市のある場所に移動されたという。何とも惜しまれる施設である。



100年以上歴史のある古民家（遠来荘）

「ひな鳥山」と恵比寿さま

八王子柚木の長閑な丘陵地に古民家を移築した重厚な建物の料亭がある。なかでも水の上を舟に乗せて運ばれて来る料理は人気がある。

重々しい山門を入ると、目の前に大きな水車がゴトゴト音を立てて回っている。その脇の建物の中が受付で、太い柱など年代が感じられる。受付棟を奥に抜けると、また大きな三連水車が回っている。圧巻である。敷地の内外の置物も価値ある物が多いとか、一見に如かずと言える。

また、「ひな鳥山」には七福神の恵比寿さまの伝説が残っている。

むかし、料亭を作るため土地を整地していると鍬の先に何かがコツンと当たる音がした。主人が拾い上げ、汚れた石を水で洗うと、なんと恵比寿さまだったとか。今でも、門を入った右側の祠の中に安置されている眼をこらして見ないと判らぬほどの小さな石仏である。



三連水車



「ひな鳥山」入口



恵比寿様



恵比寿様の祠

③白山神社（船木田荘）

中山八一七

祭神 伊弉冉尊（いざなみのみこと）
例祭 九月二日。

創建 平安時代とされる

東京都最古の経塚であり、また多摩地域での武士と撰閑家の関係、天台宗の僧侶の活動を知る重要な遺跡となっている。境内末社に天満宮、金比羅神社、秋葉神社、山王大権現がある。

平安時代から室町時代にかけて、市内浅川流域の一部と、由木地区から日野市にわたる地域に船木田荘があった。船木田荘は、本荘と新荘からなり、撰閑家（九条家・一条家）伝領の荘園であった。が、後に九条家と関係の深い京都東福寺嶺となっている。

由木中山の白山神社境内に経塚が造営されていることは知られていたが、本格的な学術調査は行われていない。その形式、規模などの全貌は、

わかっていないのである。

江戸時代文政九年（一八二六）、春の陽射しが氷を溶かし、塚上の土砂が崩れて銅製経筒が露出した。その中に仁平四年（一一五四）の奥書を持つ法華経等十巻が納められていた。経塚は、法華経などの教典を中心に、銅鏡・仏像・仏具・刀子・その他の奉祀物を地下に埋納した塚のことである。社寺の境内や名山名勝の地に造営される例が多い。

そこには、末法思想に基づく弥勒信仰と、それに根ざした法住を祈る気持が強く打ち出されている。

奥書を持つ経巻には、船木田荘内の長隆寺で、僧弁智を中心に写経が行われこの地に埋納されたことが記されている。奥書にはさらに、小野氏などの名も記され、武士团的発展を遂げた横山党（小野姓）の存在もうかがえる。



白山神社本殿



白山神社入り口の鳥居

●長隆寺の礎石

この礎石が何時の頃から白山神社境内に置かれていたのか不明である。伝えによると、平安時代中山村に創建された長隆寺のもので、鳥居の近くの、堂山にあったという。長隆寺は、中山地区最古のお寺で、それが存在していたことを実証するものである。さらに、この神社境内から出土した経塚の経巻と併せて重要な文化財といえる。

礎石の大きさは、長軸百十cm、短

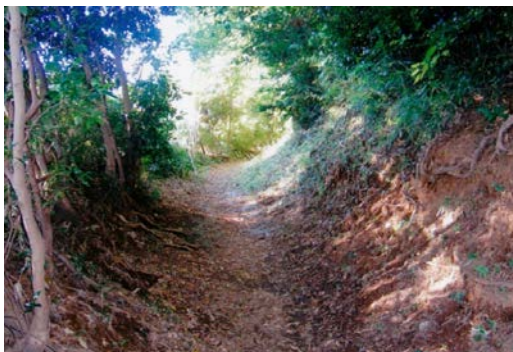


参道階段脇の石仏



長隆寺の礎石

軸八十cm、厚さ三十五cm。平らな表面には、浅い溝で丸く刻まれた柱座の跡があるだけの素朴なものである。東大寺や国分寺など奈良時代に建立された寺院の礎石は、一般的に大きい。平安時代以降のものは、小型化している。時代の特徴を比較していくと、長隆寺の草創年代を解明する手がかりとなる。



白山神社裏の古道



礎石の上に柱の跡が残る

参考資料



経 卷



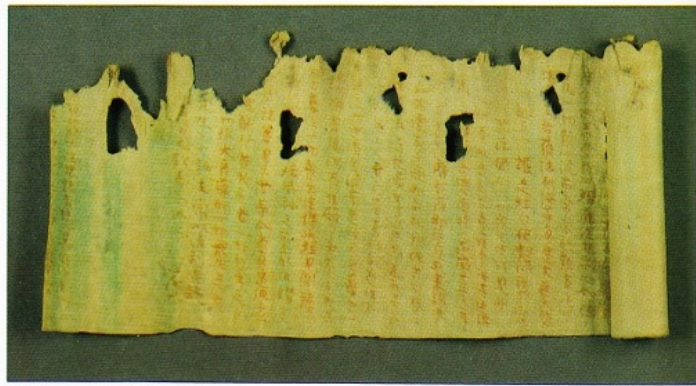
白山神社

白山神社経塚

白山神社経塚は、八王子市中山の白山神社境内に存在する。経塚の発見は数次におよび、いずれも社殿の改築や境内の整備などによる偶然的発見と伝えられる。まず最初の発見は『白山神社縁起』等の記録によると、文政九年（一八二六）、春の陽差しが氷を解かし塚上の土砂が崩れて銅製経筒が露出し、その中に仁平四年（一一五四）の奥書をもつ法華経等十巻が納められていたといわれる。次は、明治十七（一八八四）四月の発見で、この時は銅製経筒および外甕、鏡等各数点、鉄製刀子一口が出土し、大正十三年（一九二四）二月には社殿改築に際し、銅鏡一面と桧扇の残片が発見されたという。そして昭和五十一年（一九七六）五月、境内の整備にともない、金銅経筒残欠一口分、甕一口、銅鏡一面が発見された。

●経巻

文政年度発見のものは法華経八巻及び開経たる無量義経一巻、結経の観音賢経一巻、合せて十巻ある。すべて紙本朱書で、書体は各々異なっている。料紙の水気のため緊着してそのほとんどは開くことができない。ただ奥書が判読可能なものもいくつかあり、その史料価値は高い。



無量義経
以此書写結縁為法界諸有情皆共成仏像

年甲戌 九月十一日大勸進僧弁智

……小野氏人等 結縁者有阿

……僧此順 清原氏人等

法華経第一巻

法華経第二巻

法華経第三巻

法華経第四巻

法華経第五巻

法華経第六巻

法華経第七巻

法華経第八巻

法華経第九巻

法華経第十巻

法華経第十一巻

法華経第十二巻

法華経第十三巻

法華経第十四巻

法華経第十五巻

法華経第十六巻

法華経第十七巻

法華経第十八巻

法華経第十九巻

法華経第二十巻

法華経第二十一巻

法華経第二十二巻

法華経第二十三巻

法華経第二十四巻

法華経第二十五巻



●経筒

●写真右の経筒は鉄製で、筒身高20.4センチ、同口縁部外径10.3センチ、肉厚は平均して0.5センチ程である。別に蓋があり表面に鍍金はみられない。筒身の内部底辺や蓋の内側に直径3センチ前後の経巻十巻分の痕跡が明瞭に残り、経紙もわずかに付着している。現在、文政九年（一八二六）新調の箱に収められている経巻とほぼその痕跡が一致するところから、この経筒も同時発見のものと思われる。

●写真中央の経筒もやや小型であるが鉄製で、筒身高12.6センチ、同口縁部外径7.2センチ、別にこれも鉄製の蓋をとまなう。鍍金はみられない。

●左の経筒は鍛造で、ちやうど茶筒のように薄い銅板で造られている。筒高20.2センチ、同口径10.4センチ、別に半球型の鈕をつけた蓋がある。現状では薄い銅板のため、錆や腐蝕によりかなり傷んでおり、底部も筒身からはづれている。しかし表面には鍍金が随所によく残る。

以上の三口の経筒はいずれも銘文は刻まれていないが、当経塚の造営から平安時代末期のものと考えられる。

参考資料



鏡



刀 子



桧扇の金箔

参考資料

●東福寺領武蔵船木田庄領家
方年貢算用状(東福寺文書 東福寺蔵)

船木田庄領家方年貢算用状(東福寺文書 東福寺蔵)

給与経由

船木田庄領家方年貢算用状

延文六年合

納

六貫文

一貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

二貫文

豊田村

梅坪村

南河口郷

北河口郷

長房郷

由比野村

谷慈郷

京進

夫上用途

守護方道之

死戸殿點心

教言切符

教言冬糞物

在國難事時薪

在國難事時薪

在國難事時薪

在國難事時薪

在國難事時薪

在國難事時薪

在國難事時薪

在國難事時薪

在國難事時薪

在國難事時薪

船木田庄領家方年貢算用状(東福寺文書 東福寺蔵)

六貫文	豊田村	六貫文	豊田村
一貫文	梅坪村	一貫文	梅坪村
二貫文	南河口郷	二貫文	南河口郷
二貫文	北河口郷	二貫文	北河口郷
二貫文	長房郷	二貫文	長房郷
二貫文	由比野村	二貫文	由比野村
二貫文	谷慈郷	二貫文	谷慈郷
二貫文	京進	二貫文	京進
二貫文	夫上用途	二貫文	夫上用途
二貫文	守護方道之	二貫文	守護方道之
二貫文	死戸殿點心	二貫文	死戸殿點心
二貫文	教言切符	二貫文	教言切符
二貫文	教言冬糞物	二貫文	教言冬糞物
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪

船木田庄領家方年貢算用状(東福寺文書 東福寺蔵)

六貫文	豊田村	六貫文	豊田村
一貫文	梅坪村	一貫文	梅坪村
二貫文	南河口郷	二貫文	南河口郷
二貫文	北河口郷	二貫文	北河口郷
二貫文	長房郷	二貫文	長房郷
二貫文	由比野村	二貫文	由比野村
二貫文	谷慈郷	二貫文	谷慈郷
二貫文	京進	二貫文	京進
二貫文	夫上用途	二貫文	夫上用途
二貫文	守護方道之	二貫文	守護方道之
二貫文	死戸殿點心	二貫文	死戸殿點心
二貫文	教言切符	二貫文	教言切符
二貫文	教言冬糞物	二貫文	教言冬糞物
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪

(東福寺蔵 東福寺文書 東福寺蔵)

この「算用状」には、いくつかの郷村が記されており、そのほとんどは古牧や川口氏、天野氏とゆかりのある地域である。貞治元年(一三六〇)には七郷村であったが、貞治二年(一三六二)になると「始知行分」として新たに七郷村が加わっている。このうち平山・豊田が日野市域に、下堰が不明の他はみな全て八王子市域にふくまれる。

船木田庄領家方年貢算用状(東福寺文書 東福寺蔵)

六貫文	豊田村	六貫文	豊田村
一貫文	梅坪村	一貫文	梅坪村
二貫文	南河口郷	二貫文	南河口郷
二貫文	北河口郷	二貫文	北河口郷
二貫文	長房郷	二貫文	長房郷
二貫文	由比野村	二貫文	由比野村
二貫文	谷慈郷	二貫文	谷慈郷
二貫文	京進	二貫文	京進
二貫文	夫上用途	二貫文	夫上用途
二貫文	守護方道之	二貫文	守護方道之
二貫文	死戸殿點心	二貫文	死戸殿點心
二貫文	教言切符	二貫文	教言切符
二貫文	教言冬糞物	二貫文	教言冬糞物
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪
二貫文	在國難事時薪	二貫文	在國難事時薪

東福寺領武蔵船木田領家方年貢算用状(東福寺文書 東福寺蔵)

⑤ 飯盛山永昌院

中山四五二の二

宗派 曹洞宗

本尊 釈迦牟尼仏

開創 天正十年（一五八二）

開山 永林寺第三世岳應義堅和尚

飯盛山永昌院は、永林寺第三世岳應義堅和尚により、天正十年（一五八二）に創建された。開基は、北条氏照公の家臣で遣水、中山を知行していた葛沢豊前守、法号道順永昌居士（文禄五年八月十五日寂）である。慶安四年（一六五二）、永昌院第二世稗庵堅承和尚により中山観音を遷座し、江戸時代には朱印七石を賜る。

現在の観音堂は、境内の西にあり、大正八年（一九一九）に再建されたものである。第四十世大圓玄獅により、昭和四十六年（一九七二）に本堂を新築する。



永昌院中山観音堂



永昌院山門

⑥ 細田山西光寺

上柚木一五三七

宗派 曹洞宗

本尊 釈迦牟尼仏

開創 応永二十九年（一四二二）

開基 永林寺二世照室恵鑑

境内に山王社があり、愛染稲荷を合祀している。応永二十九年（一四二二）、時の地頭細田河内守忠次が軍の守護のために建立した。その子孫が、滝山城主大石氏の家臣であった時、永林寺二世照室恵鑑を開山として天正十二年（一五八四）に起立。その後、光明院本尊勢至菩薩を山王社内に合祀した。本堂は、昭和十二年（一九三七）に再建された。



中山観音

この寺には古狸伝説が残っている。むかしむかしこの寺に古狸が住み着き、山姥や狼などに化けて村の衆を困らせていた。見かねた和尚が古狸を退治したという。それからは悪さが無くなったという。



釈迦牟尼仏



西光寺の山王社

⑦大栗（大庫裡）川

由木地区鑓水の御殿峠を水源として、由木を東へと流れ、多摩市に入り多摩川に注ぐ川。流長十五・九km、流域二十五・六km。上流は鑓水川ともいい、多摩ニュータウン計画地域の北部を流れ、兩岸双方から由木地区全域の水を集めている。河川改修工事は、ほぼ全域にわたって終わっている。かつては大栗川の水量を利用し、都内で屈指の養殖場があり、近県から魚を買い付けに来ていた。



西光寺からの眺め

⑧愛宕神社

上柚木十一号の二〇三の三

祭神 火産霊神迦具土命
創建 不明
例祭 九月七日

大栗川の前田橋を渡ると、上柚木公園の北側に愛宕神社が鎮座している。伊勢湾台風により社殿が倒壊、昭和二十九年（一九五四）仮殿を再建、ニュータウン建設により、昭和六十一年（一九八六）九月現在地に遷座。社殿は八雲神社、境内に毘沙門天社が祀られている。



大栗川

●愛宕山

皇国地誌の由木村誌には、上柚木の中央に位置する山をいい、そこに愛宕神社があったという。

ところで愛宕山は、京都市北西部上嵯峨の北部にある山。標高九百二十四m。山頂には愛宕神社があり、雷神を祀り防火の守護神としている。



愛宕神社本殿と奥伝



毘沙門天



愛宕神社境内の毘沙門天

◎参考資料

- ・武蔵名勝図絵
- ・新編武蔵風土記稿
- ・武蔵野歴史地理
- ・大学セミナーハウス資料
- ・八王子の歴史と文化
- ・八王子郷土資料館資料
- ・八王子事典
- ・八王子寺院めぐり
- ・図説歴史散歩事典
- ・山川日本史総合図録
- ・株式会社昭文社
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ
- ・インターネット各ページ